

イタリアとスペインの今後の政局展開

発表日：2018年5月28日(月)

～延長戦突入で秋にダブル選挙か？～

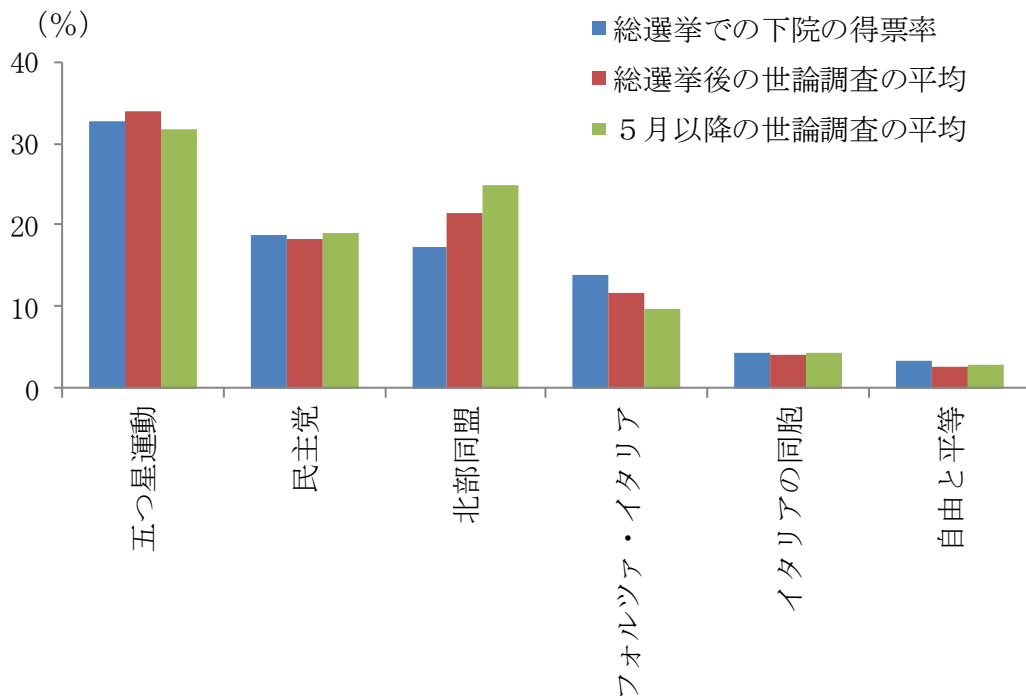
第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

- ◇ イタリアでは反体制派2党の財務相候補に大統領が難色を示し、政権発足の試みが失敗に終わった。ただ、最近の世論調査の結果から判断する限り、再選挙時も反体制派2党が連立を組む以外の政権発足の選択肢は見当たらない。反体制派政権の誕生と財政運営を巡るEUとの対立は時間の問題。
- ◇ スペインでは汚職問題をきっかけにラホイ首相の退陣要求が強まっており、政権交代や再選挙の可能性が浮上。野党勢が後継首相候補を一本化できるか、カタルーニャの独立を支持する地域政党の協力を経て政権交代を実現できるかは不透明。ただ、政権を閣外協力してきた新興政党も首相の退陣を要求しており、今回の政局危機を乗り切ったとしても、議会運営が行き詰まるのは目に見えている。

イタリアでは政権発足で合意した五つ星運動と北部同盟の財務相候補に大統領が難色を示し、反体制派政権の誕生が暗礁に乗り上げた。首相と閣僚の任命権を持つマッタレラ大統領は、両党が推す首相候補で法学者のコンテ氏に組閣を要請したが、ユーロ懐疑派の経済学者サボナ氏の財務相指名を拒否。反体制派2党もサボナ氏以外の財務相就任を拒んだ結果、政権発足の試みは失敗に終わった。両党は大統領の指名拒否が民主主義を蔑ろにする行為で、大統領としての権限を逸脱していると批判。五つ星運動のディ・マイオ党首やイタリアの同胞のメローニ党首など一部の政治家は、大統領の弾劾手続きを要求している。同国の憲法第90条には、国家への反逆や憲法に違反する場合、両院の合同議会での絶対過半数の投票で大統領が弾劾されるとの規定がある。指名拒否が憲法違反に相当するかは議論の余地があるが、五つ星運動と北部同盟は弾劾に必要な両院の過半数を確保している。

大統領は現地時間の28日朝にイタリア出身でIMFの元高官であるコッタレリ氏と面会を予定しており、同氏に暫定政権の組閣を要請するとの観測が浮上している。反体制派2党はテクノクラートが政権を率いることに反対しており、早期の再選挙実施を求めている。コッタレリ氏が暫定首相に指名されたとしても、議会の信任を得られる可能性は低い。その場合も選挙管理内閣として政権を率いることが予想されるが、議会の信任を得られないまま予算審議を乗り切るのは困難で、秋にも議会の解散・総選挙が行われる可能性が高い。3月の総選挙後の世論調査で、五つ星運動と北部同盟の2党が支持を伸ばしているが、最近の調査では五つ星運動がやや失速気味な一方で、北部同盟の勢いが一段と増している(図表1)。ただ、両党ともに単独で政権を率いるほどの支持は期待できず、再選挙となった場合も反体制派2党の連立以外に政権発足の現実的な選択肢は見当たらない。大統領が民意をどこまで拒めるかを巡って、反体制派2党が攻撃を強めるのは必至で、最終的には反体制派政権が誕生する可能性が高い。

(図表 1) イタリア総選挙後の世論調査での主要政党の支持率

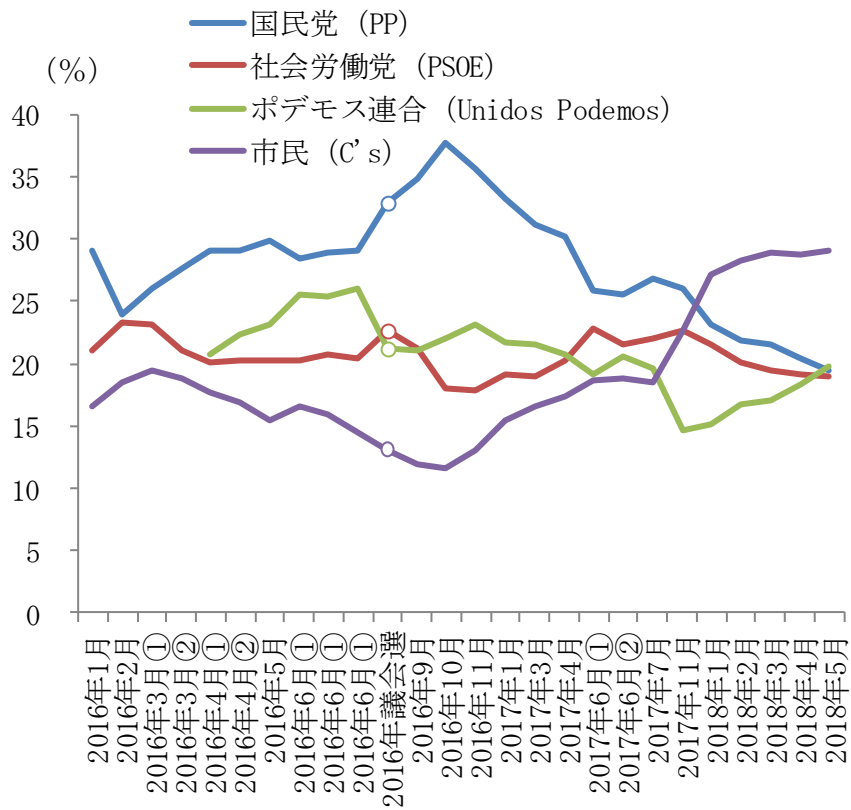


出所：イタリア内務省、SWG資料より第一生命経済研究所が作成

他方、スペインでは国民党の汚職関与を巡ってラホイ首相への退陣要求が強まっているが、このまま政権交代や再選挙に発展するか、事態はまだ流動的だ。最大野党の社会労働党がラホイ首相に対する不信任動議を提出し、これに新興左派政党のポデモス連合が同調する意向を示唆しているが、両党の合計議席は不信任動議の可決に必要な過半数に届かない。ラホイ政権を閣外協力する新興リベラル政党・シウダダノス（市民）は、社会労働党主導の不信任動議への協力を拒否している。同国の不信任動議は、次の政権の信任動議を兼ねており、不信任動議が可決した場合、動議に盛り込まれた首相候補が再選挙を経ずに政権を率いる。シウダダノスはラホイ首相が自ら議院を解散しなければ、社会労働党とは別に首相の不信任を要求するとしている。最近の世論調査で他党を大きくリードするシウダダノスは、社会労働党主導の政権が誕生するよりも、早期の再選挙を望んでいる（図表2）。ただ、社会労働党のサンチェス党首は、不信任動議が可決した場合の再選挙の可能性も示唆しており（時期は明言せず）、両党が国民党政権打倒で共同歩調を歩む可能性も残っている。シウダダノスの協力が得られない場合、社会労働党が不信任動議を可決するには、バスクやカタルーニャの地域政党の協力が必要となる。前述した通り、同国の不信任動議は次期政権の信任票を兼ねている。カタルーニャの独立に賛成する地域政党の協力を取り付けることは、社会労働党にとって政治的に難しい判断となる。ただ、これまで国民党政権に閣外協力していたシウダダノスが首相の退陣を求めている以上、ラホイ政権が議会運営に行き詰まるのは目に見えている。今回の不信任動議や退陣圧力を交わすことに成功したとしても、秋に控える予算審議を乗り切れるとは思えない。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

(図表 2) スペインの主要政党別の支持率推移



注：○印は選挙結果

出所：Metroscopia資料より第一生命経済研究所が作成

以上